

2月末の人口	
世帯数	558世帯
男	699人
女	698人
計	1,397人
(馬路 1,027人)	
(魚梁瀬 370人)	



# 広報 うまこ

平成33年3月15日発行  
 第三九号  
 発行 馬路村教育委員会  
 印刷 安芸印刷

## 故 村長 西野真司氏 合同葬



さようなら 西野村長

# 今月のスポット

## 《 1 月 》

- 11日 馬路村議会議員選挙
- 19日 村内駅伝競走大会
- 27日 (大正琴弾初め会) 大正琴

## 《 2 月 》

- 1日 村長選挙告示
- 3日 親子スキー教室 (久万スキー場)
- 5日 小学校すばこかけ
- 8日 安全祈願祭
- 11日 中芸地区子供駅伝競走
- 15日 へらぶな放流
- 16日 森林保養センター起工式
- 28日 馬路村森林組合総会
- 〃 馬路村農協総会

## 《 3 月 》

- 2日 ひなまつり発表会

## フォト・フォーカス



▲ 2月5日 すばこかけ



▲ 2月15日 へらぶな放流



▲ 2月16日 森林保養センター起工式



▲ 2月28日 森林・農協総会



▲ 3月2日 ひなまつり発表会

村内あちらこちら





# 馬路村長 西野 眞司氏 急 逝

平成2年1月20日村制100周年式典で

西野眞司村長(64)が一月十一日午後十一時五十八分、入院先の県立中央病院で心不全のため逝去されました。

氏は土佐高から慶応大学へ進み、昭和三十六年役場入り。議会事務局長、教育長、助役を歴任し、六十一年八月村長に当初選され、昨年七月に無投票再選を果たされたばかりでした。

村長就任のころは村の過疎化がいちだんと進み苦しい舟出となつたが、魅力ある村づくりを基本に、地場産品の見直し、魚梁瀬温泉開発、若者定住事業と次々に将来に向けた施策を打ち出し、現在では一時より若者の数も増えその手腕が芽ばえようとしているときだった。

温厚で発想豊かな知性を持った人だっただけに突然の死がおしまれてなりません。ごめいふくをお祈りします。

## 略 歴

- 昭和三十五年慶応義塾大卒
- 昭和三十六年四月馬路村役場採用
- 昭和四十年四月議会事務局長
- 昭和四十七年六月教育長
- 昭和六十年一月助役
- 昭和六十一年八月村長

「うまじ村広報」での出会い  
昭和三十六年、西野さんが役場入りした頃、私は魚梁瀬中学校に勤務していました。

当時、山崎公好さんが村長で、西野さんと共に来校し、村広報刊行に協力依頼を受けました。

私は、山崎村長に広報発刊を進言した手前、断り切れず、魚梁瀬地区の原稿を送ることになりました。

当時の広報は今も私の手元にあります。実に立派なものです。さすがに、慶応大文学部卒の西野さんの文才、手腕で、村民に親しまれる「うまじ広報」が誕生しました。

『たかが川柳、

されど川柳』

昭和六十年、馬路中学校長に赴任した年に、私の川柳『君が代は相撲の歌のそれでよし』が村会議で大問題になりました。村教委、村執行部の方々に大変心配をかけましたが、今となっては懐かしい思い出の一つになってしまいました。

その問題が一段落した頃だったと思いますが、十二月末、馬路中の仕事納めの宴が終る頃、「村長が呼びよる」と天吾の

## 村長 西野 眞司さんの思い出

竹内 甚吉

川」に招かれました。

村議会も打ち上げをやっていたようで、村三役と一、二の議員がいましたが、小松村長や西野助役に盆を受けながら慰められたことでした。その時の「たかが川柳、されど川柳」と、さらりと囁かれた西野さんの一言が忘れられません。

意味深長な言葉でした。私は今、「されど川柳」を続けていますが、西野さんは「たかが病氣、されど村政」と村政に一身を捧げられました。

山を動かした村葬  
一月五日、テレビニュースで、西野村長の訃報を耳にしてがく然としました。五回も入退院をくりかえしていたとは知りませんでした。

村長の柩が招く人の群  
・ 弔問の車で埋まる過疎の村  
盛大な村葬の中で、私は「たかが川柳、されど川柳」を静かにかみしめていました。

消えてゆく  
・ 在りし日の声が読経に

・ 村長の柩にすぎる村民歌  
・ 村長の柩へ山が哭いている  
ただただごめい福をお祈りするばかりです。

# カナダを走った記

## — 役場走友会 — 最終回

いよいよ  
マラソンレ  
ース当日の  
朝を迎えた。  
前日に、受  
付会場であ  
るホテル  
「ホリデイ  
・イン」で  
手渡された  
ゼッケンを、  
ランニング  
シャツに付  
ける。シャ  
ツ・パンツ  
共に特注品  
でそろえた。  
胸にはカナ  
ダの国旗を  
付けてある。シューズも履き慣  
れたのをカバンから取り出し、  
靴ヒモをしっかり結ぶ。あとは  
朝食をすませばかりとなった。  
馬路を出発する前に「僕にま  
かいちよき。スタートの二時間  
はあ前に、炊きたての白いご飯  
を食べらいちやうきに。」とは、  
S君の弁であった。  
「どうやって炊かあ?。」  
「ほりや、年寄りには知らんろ。  
今は便利なものがあるきに。」  
と自信たっぷりであった。とこ  
ろが、馬路農協購買部で買い、  
はるばる太平洋を渡ったインス  
タントご飯(沸騰した湯にパッ  
クごと入れたら食べられるレト

ルトご飯)が湯を張った洗面台  
の中で、二時間程前から六個沈  
んでいる。買った時の固いまま  
で。  
「こりやどうやって食うがな。」  
「ごめん……。」  
しかたなし、昨夜スーパーマー  
ケットでビニ本と共に買い込ん  
だニカラグア産のバナナをほお  
ばることにした。  
そうこうしながらもスタート  
会場へ着く。寒い。昨日までの  
陽気が急変している。オリンピッ  
ク記念公園に号砲が響く。初体  
験四十二・一九五kmの始まりで  
ある。車イスの青年もいる。老  
若男女二〇〇〇人余りの市民マ  
ラソンだ。みんなが一斉に動き  
出す。  
ここバンクーバーは、市内い  
たるところに原生林を残した自  
然公園があり、市民の憩いの場  
となっている。公園内の走路を  
野リスが横切っていく。そこを  
人が駆ける。こちら辺のリスは、  
人間の手からでもエサをもらっ  
て食べる。吊り橋(ライオンズ・  
ゲート)を吹き抜ける横風がよ  
うやくあたたまりかけた体に心  
地良い。  
半分ぐらい走っただろうか。  
脇を六十才程のオジサンが追い  
越していく。  
「〇×・△□……。」  
声を掛けてくれたものの、つい  
て行けない。オッ、今度は二十

才前後の金髪が横に来た。ショッ  
キングピンクのシャツで、パン  
ツは腰にピッタリした七分長の  
黒いやつ。丁度、カール・ルー  
イスがソウルオリンピックではい  
たような。  
「よし、これだ。この腰につい  
ていけば五kmは走れる。」  
眼を離すまい。離れまい。腰が  
走る。オイラが続く。腰が揺れ



42.195kmを完走

る。オイラもがんばる。腰は元  
気だ。……オイラはもうダメ。  
ヒザがガクガク。馬路の父ちゃ  
ん、母ちゃん、もうダメだ。歩  
いているのか、走っているのか。  
ゴールが見えた。四時間四十分  
とにかく完走したのだ。結局、  
フルマラソン完走はA君のみで  
S君、H君はワンランク下げの  
十二kmランニングで落ち着いた。  
……その二時間後……

日曜日の昼下がり。映画館の  
集まったビルの前に立つ二人。  
「たしかにここぞなあ。」  
「そうよ。けんどのあの手の映画  
にはトラのマークが看板にある  
言うたけんぞ。」  
「けんど見てんや。妙に全部が  
健全なボスターぞ。」  
「見たいねエ。スクリーン一杯  
にひろがったがを。」  
……その晩……

痛む足を引きずりながら、タ  
クシーに乗り込む三人の姿がホ  
テルの前にある。ドアが閉まる。  
「ツウー。ホテルシェラトン。」  
「OK。」  
さすがに滞在四日間ともなると  
会話も堂に入っている。目的地  
は、バンクーバーで一番ノッポの  
ホテル展望バーである。ここに  
は若い娘が集まる、とガイドブッ  
クに書いてあったのだ。繁華街  
へ入ったタクシーから降りる。  
眼の前の階段へ足を掛け、建物  
を見あげる。

「なんな。これ?。」  
「ちがうぞ。こりやあ。」  
「いよいよいかんねや。おんしゃ  
あ。」  
と、自分の英会話力を棚にあげ  
て、S君を責める二人。  
「しやない。どこぞ歩いてみる。」  
「……またまた二時間後……」  
「よかったねや。さっきのショ  
ウ。」  
「ほんま。あれは拾い物じゃっ

た。バック・ツウ・ザ・ヒュー  
チャー、ビバリーヒルズコッ  
プに出てくるがと一緒じゃっ  
た。」  
など、興奮と共に会話が弾んで  
いるS君とA君をしりぬに、  
「ん!あれを見てんや、トラの  
マークぞ。」  
「まこと。トラが並んじゅう。」  
なるほど黒いトラが看板に書か  
れている。  
「やったあ。行こ行こ!。」  
切符売場の窓口に立って、中の  
怪しげな男に、恐る恐る言う。  
「スリー、チケット、プリーズ。」  
「ノー、クローズド(本日閉映)。」  
あんなさげなや。時計は十時を  
過ぎていた。一歩入ればスクリー  
ン一杯があるのに。

さてさて、この旅も大詰めを  
迎える。カナディアンロッキ  
ーやらの観光も終え、ポートアイ  
ランドを発った飛行機は、九時  
間後に成田に着いた。最後の難  
関を通らねばならぬ。日本が世  
界に誇る優秀な税関である。カ  
バンの底には、バナナと共に買  
ったアレが……。役場で同僚が  
待っている。税関吏員がカバン  
へ手をつっ込んだ。  
「こりや。それ以上書いたら  
いかん。僕に嫁の来てがのうな  
るきに。」  
突如、筆者の頭の上に響く声。  
そうしようか。これにて打ち切  
り。カナダを走った記。



# おじゃまします

## 馬路温泉



広がったフロントとロビー

今回の「おじゃまします」は、馬路温泉を訪ねてみました。玄関を入ると「いらっしやいませ」の明るい声と新しくなったロビーの木の香りに迎えられる、とてもいい好感を持ちました。

改築後  
事務所の甫木さんに改築前と改築後の温泉の状況を聞いてみると、改築後の利用者は百五十%増で、売上げも今までは最高が、八千七百万円位だったのが一月までで一億円とうれしい声

がかえってきました。

また、改築後に出来た無料休憩所はお客さんにとっても喜ばれているようだし、ロビーも広くなりゆっくりくつろげ、木をふんだんに使った所が、馬路らしさが出て好評だそうです。

しかし、うれしい声の反面、受け入れ施設が今の状態では限りがあり、お客を断るといふ悲しい現状のようだ。「受け入れ施設を増築してほしいし、その為の土地がなあ……隣の土地がほしいねやハハハ……」と明るく笑っているけれど、今後の村の課題の一つだと思いました。ロゲハウス

ロゲハウスの方も好評で夏は早目の予約を入れておかないと一杯だそうだ。ただ、電話が付いていけばもっといいと言う声があるのだそうです。

ここで一つ、男の人達にちょっと楽しみな事が……この夏温泉に約二ヶ月間位、ウエートレスで女子大生を雇う予定だそうです。お・た・の・し・み・に!!  
新しく入った事務所の乾さんは、今までとは違った職場で、とまどいながらもがんばってやっている状態だそうです。今後は難しい人間関係もあるようだけれども、若い人達が温泉はいいなと言って入って来てくれるような職場を作りたいと語ってくれました。

### 食堂

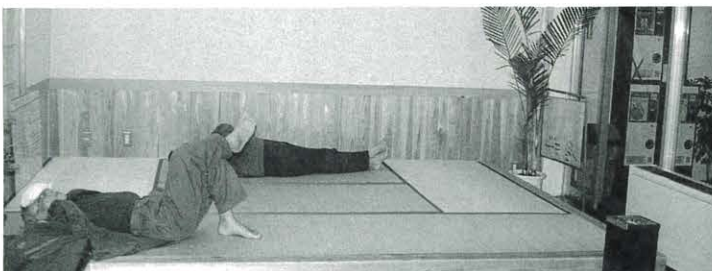
厨房、食堂で働いている人達に一言と言うと、「給料が安い」と全員が声をそろえて言ったのには、おもわず笑ってしまいました。

料理メニューについては、肉料理が増えたので、利用者が多くなったようです。西山さんに今後の事について聞いてみると、メニューをもっと増やそうかと思案中ではあるが、増やすと人手が足りないので困るし……。厨房に若い男の人（見習い）を一・二人位入れてほしいと言う声がありました。

確かに、見習いの人がいれば西山さんの動く範囲が多くなりまた、厨房の雰囲気も活気づいて、いいかも知れません。

### こんな事

甫木さんが、ちょっと前に、こんな事があったと話してくれたのは、酔った男の人が真夜中に来て、自動ドアに体当たりし壊し、温泉の中の非常ベルを割って鳴らしてしまったとか、何とその人の格好がパンツいっちょうだったと聞いて笑いが止まりませんでした。その後、その人は警察に連れて行かれたそうです。お酒を飲む皆さん、前後不覚にならない程度に飲みましょう  
それから、三月三十日が観光開きの予定だそうです。色々な



新設の休憩所

催しがあるそうですので、皆さん温泉の方へ是非おいで下さい。最後に、私が温泉におじゃまして感じたのは、改築後のお客さんの利用状況は増になり、うれしい事です。職員の人達の苦勞も何え、これからの温泉や馬路村の課題が浮き彫りになり、村民一人一人が考えさせられる事があると思えました。  
職員の皆さん、協力ありがとうございます。これからも、体に気を付けてがんばって下さい。

# 馬路村の 歴史と 伝説



< 1 >

金林寺薬師堂の建立年代

馬路公民館長 山中 巖

昭和六十年三月のある日、県文化財係審議委員の前田和男先生が、金林寺薬師堂の仏像パトロールにお出でになり、私も一緒に参加しました。

まず私たちは、国の重要文化財であります不動明王立像から調査をはじめました。この立像は、裏面に墨書銘があります。

建暦三（一一一三）年、別当の相祐と娘さんの紀氏が願主となつて、不動明王立像を造立したと書かれています。鎌倉時代

初期のもので、見れば見るほど立派な仏像です。

次は、県文化財に指定されております本尊の薬師如来座像です。

松材の一本造り、像の高さは九十二センチメートル、山寺特有の風貌を持ち、体軀はがっしりとしています。

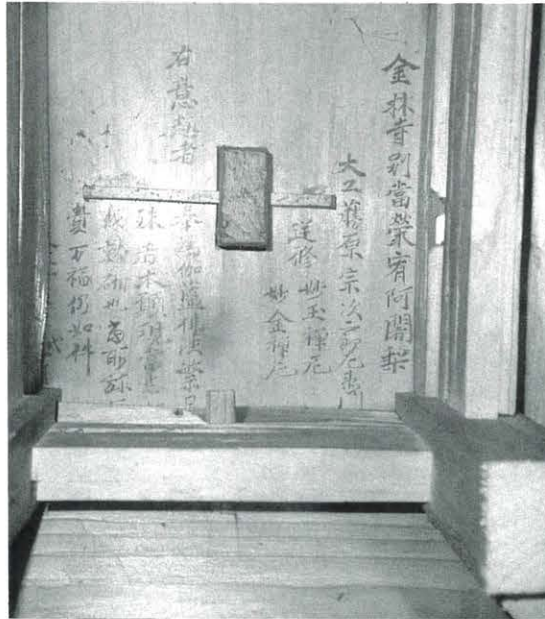
両脇には、村文化財の日本菩薩、月光菩薩の立像と奥深く安置してあります。詳しく調査するためにはお厨子の中へ入らな



不動明王立像

ければなりません。私は須弥壇へ上り、お厨子の中へ入っていきました。そして菩薩像二体を取って前田先生に渡しました。それから薬師如来座像の螺髪、板光背へと目を移していったのです。

出害その他異常はありませんでした。数日後、お厨子を開けていただき墨書銘を写し取りました。墨書銘  
金林寺別當榮有阿闍梨  
大工 藤原宗次之助左衛門  
逆修 妙玉禪尼



本尊の薬師如来座像の天井に書かれている墨書銘

天井いっぱい墨書銘が書かれているではありませんか。

私の胸は震えました。「逆修」「別當榮有」は次々に文字をとらえました。しかし最後に書かれた年月日は枠組みされて、点や線が見えるだけで全然わかりません。

当日は、仏像調査が目的でしたので、毘沙門天立像、その他の仏像を調査して終わりました。

右意趣者 妙金禪尼  
奉為伽藍佛法繁晶  
殊者本願現當志  
成就砌也  
貴万福仍如伴

私は教育長と住職に墨書銘を発見したことを報告し、大工を雇ってお厨子の天井板をはずすことにしました。これは隠され

ている年月日を調べるためでした。

しかし、お厨子全体を解体しなければ天井板をはずすことができないとわかりました。止むを得ず中止をしました。

そこで、「別當榮有」の年代調べを始めたのです。棟札や古文書を次々にあさりました。ついに馬路熊野神社の棟札にその名前を発見しました。永正十六己卯曆十二月吉日の棟札でした。今を去る約四百七十年前「別當榮有」の時代に、須弥壇、お厨子が作られたものと考えられます。

このことは、薬師堂本堂の建立年代と無縁ではありません。薬師堂に現存する最古の棟札は、天和三（一六八三）年のもので、現在の薬師堂は藩政時代に建立されたといわれてきました。

しかし、この墨書銘の発見によって、薬師堂の建立は、室町時代と考えるのが妥当であるように考えます。



本尊薬師如来座像



# 小学校スキー教室



二月三日、小学五、六年生を対象にしたスキー教室が開かれるという知らせが、教育委員会より届きました。丁度その日、魚梁瀬小学校は日曜参観日の予定になっていましたが、南国の子供達にとって機会が少なく、経験をさせたいということで、馬路・魚梁瀬小合同のスキー教室への参加が決まりました。

したが、やはりだめで、久万の人工スキー場に変更になりました。父兄の参加もよろしいということで、私も参加をすることにし、子供以上に期待に胸をふくらませて当日をむかえました。子供も楽しみでよく眠れなかったようですが、私も随分興奮をしていたように思います。とい

その生活の中で、多少スキーを経験したことがあり、青春時代の思い出が走馬燈のように浮かんでは消え、浮かんでは消え、思い出され、初めての人よりはすべれるかなという自信と不安が交錯し、夢の中でもスキーをつけて滑っていたように思います。



予定地が変更になったことで教えてくれる人がいないため、昔を思い出しながら子供に教えました。無理をせず、少しずつ滑ろうと繰り返し、繰り返し練習をしました。



子供達はというと、始めは少し怖がっていましたが、すぐに無鉄砲と思われる程、急斜面でもかなりのスピードを出して滑るようになり、ハラハラしながら見ていましたが、止まる時も意外と上手なので安心しました。子供達の勇気と、運動神経の良さに改めて感心させられました。



# ——保健室コーナー——

## 高齢村馬路!?

日本は超スピードで高齢化社会を迎え、大変だ、大変だと言われた。では、馬路村はどうなんだろう。高齢村？ 大変？

### ① 人口構成の変化をみると……



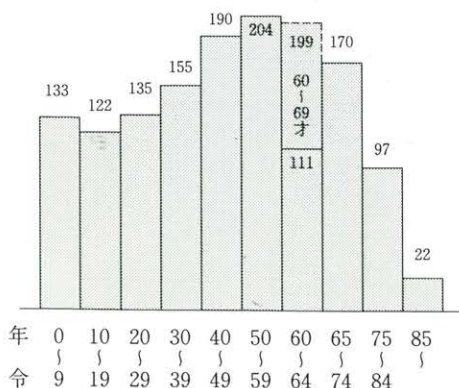
日本もたしかに昭和45年と比べると年少人口が少なくなり、老年人口が多くなり高齢化している。馬路村は昭和45年時点では全国より年少人口が多かったが、急激に少なくなり、昭和60年では年少人口の割合が、老年人口と同じ位までになった。全国よりもっと超スピードで高齢化を迎えている。

### ② 昭和63年現在の安芸保健所の中ではどうかな？



最も高齢化を迎えている北川村で年少人口もっとも少なく老齢人口が最も多い。馬路村は老齢人口の割合は今の所多くないが年少人口が北川村について少ない。近い将来的には北川村においつきそうである。生産年齢人口は最も高いので今は一番活動的な村なのかもしれない。

### ③ 今現在の各年齢別人口数は H.2.12 現在



{ 65才以上 289人  
70才以上 201人

40代、50代の働き盛りの人が多い。また70才以上も201人いる。何年か先が心配だなあ。今40~50代の人が70才になった時どうなるのだろうか？

日本が大変だあ〜。しかし馬路もっと大変だ〜。今何か対策を考えて行く必要があるのでは!!



# スポーツ安全保険

— 小さな掛金、大きな補償 —

掛金は (1人年額)	死亡・後遺障害	最	高	1,400万円
	入院	1日につき		4,000円
子ども 360円	通院	1日につき		1,300円
大人 1,100円 より	身体賠償	1事故につき	1億円	限度
	財物賠償	1事故につき	500万円	限度
	見舞金	心臓マヒ等の死亡		50万円

受付四月開始

教育委員会岩城まで

## 馬路の百合

四季は皆の心に、肌にとめぐりき、心待ちした春の時はもうすぐそこまでやってきました。広報うまじの効あつてか、今年には二百五十球のカサブランカが植えられます。

去る二月十九日には、馬路中の生徒全員が一鉢ずつ植えて下さいました。卒業する三年生は家に持って帰ったようです。六月になり高校生活にも馴れる頃、美しい白い花、あのカサブランカが後輩と共に植えた思い出と共に開花することでしょう。球根の注文と言えば、ふる里小包の中に入れていた広報を見られた札幌市の寺坂さんからも



申し出がありました。寺坂さんは、とても馬路村に心を寄せられており、ごつぐんの販売にも協力をして下さいました。村長さんの死去を悲しまれ、心やさしい便りを下さいました。ふる里小包の縁で、あの百合が北海道にも咲く。とてもうれしい事です。

馬路には花の好きな人がたくさんおられますが、忠霊塔の前にもカサブランカを植えてみよう、話がまとまりました。『死せし人に花を飾っても知りはせぬ。』かも知れません。しかし、国のために戦った人々への思いと、生きている者の生きる価値感を確かめるために

も……。春が近くなると雨が多くなりませんが、今朝は青い空も見えて空に向かう桜の枝先には、ふつくとつぼみがふくらみはじめています。冬枯れの大地からは若芽が出はじめ、植えていたチューリップも愛らしい芽を出し、春を告げております。今日は小学生のひな祭りとか。小さな村で育つ幼い子らが、大きく育つ

その糧ともなろう馬路の思い出、一人一人のいや仲間の歴史が今日もまた刻まれてゆく。

## 馬路・魚梁瀬

### 俳句会

喜美栄

数え年九十翁の去年今年  
殉職に終りしいのち蝶凍つる

千鶴子

注連飾り隈なくすまし頑固翁  
初雷やいくさの痛みよみがえる

うた子

大寒の春中頃の暖かさ  
初日の出空青々と身も榮える

清子

初詣ながめつつ行く太平洋  
年賀状友は都の養老院

一美

冬麗のさらさら過ぎし葬の列  
鍋の物少し残りし寒さかな

雅子

歌歌と杉山よりの初日の出  
お正月映ひそひそと村議選

百合子

屠蘇の座に私と古び九谷焼  
尼僧から鍋ごと貰う七日粥

麗山子

葬送の曲枯枝に日が落ちる  
短日やきょうも蛇神の前通る

善心

葉牡丹と仏の庭に五十本  
風邪薬備え暮らして老いにけり

安芸市広域市町村（九市町村）

東谷 望史

ニュージーランド調査から

ニュージーランドから帰国後一ヶ月が経ち、子供に問いかけてみた。「家族でニュージーランドに行つて生活しよう。」

子供は返事に困つたようであったが、それほど私を引きつける自然環境や生活、時のゆとりがニュージーの良さとして心に残っている。

私が今回の海外調査に参加を希望したのは、県内水面漁連の松浦さんが、鮎の講演の中でニュージーの事に触れ、山や川の自然のすばらしさを聞かせてくれたからであり、南島のマウン・トゥックやフィヨルランドの大自然を一度は訪れてみたいと思つていたからである。

しかし、今回の調査は、北島の酪農地域や海浜、温泉を柱とした観光地の調査で、私の目的とは少し違ったコースであった。調査団は、室戸市長を団長に、芸西村から東洋町まで九市町村十七名と高新安芸支局長、事務局の県地方課職員、計二十名であった。

成田からオークランドへ十時間二十五分、機内から早くも英

語が必要となり、私にとっては不自由な旅行となった。今回の調査は先にも書いたが、農業調査と資源を活かした地域振興や観光開発であるが、二日間のフ

アーム（農牧場）ステイも組み込まれており、ニュージーの酪農生活を体験する事に対して、楽しみと不安がいっぱいであった。

飛行機がオークランドに着くと、入国手続を済ませ、すぐに市内視察に入った。目に映る町並が異国の地に來た事を教えてくれる。

オークランドの市街地は緑にあふれ、町のすべてが公園のようである。家々の庭には芝がきちと植えられ、週一回芝刈を



ボブさん夫婦と自宅前で

するということのように、実にきれいだ。又、町にはゴミや空缶など全く落ちていないし、道路傍の花壇も良く管理されている。

私はこの事だけでも十分な勉強になった。皆が協力し、自分達の住む町をきれいにする。よく言われている事だが、日本ではここまで徹底して行っている町はないだろう。馬路村も、せめて空缶を落さない（落ちていたらすぐ拾い）空缶が捨てられない環境をつくる事が、皆の力で出来ないものかと考えたりもした。

さて、ニュージーの農業を紹介すると、酪農が国の主産業であり、国民三百三十万人に対して、羊が六千万頭、牛四百五十

万頭、鹿一萬頭が飼育されているとの事である。ニュージーの農業の研究や指導は、ルアクラにある農業試験センターで行われていた。

面積六百四十ヘクタールの広大な農場に、羊や乳牛、鹿が飼育され、科学者や技術者六百人の職員が、品種改良や病害虫研究に取り組んでいる。研究の成果は、全国にある支所を通じ、農家に指導発表しているとの事であった。

又、ニュージーは南半球のため日本とは気候が反対であるが、最近では、日本向けの施設園芸の研究にも力を入れ始めているようである。近い将来、高知の園芸と競合する事も予想され、団員の中の農業青年は先が不安だともらしていた。私はここで

柚子を栽培し、四月から六月の黄玉端境期に日本に送れば、十分採算がとれると考えるのだが……。



オークランド市街地

次は林業についてであるが、バスの窓から見た山林風景は、植林がきちんと列に並べられ、植えてある木は米松であると思われた。樹間が約三メートルで、非常に広く、枝打ちも行われている。木の樹齢は皆若く、天然木は開拓時代に切ってしまったようである。木材は日本に輸出しているが、南方材のような大径木は見られなかった。

ニュージーの林業の問題点について、ロトルア市長は、日本と同じように、後継者不足と木の利用が減つた事を挙げ、促進のため、市役所の内装にはふんだんに木を使っていた。日本も木材建築が見直されつつあるが、外国でも工法を工夫し、木を活かそうと独力しているのが良くわかった。

目的の一つ、観光調査であるが、どこの観光地も自然にはあまり手をつけていない事、日本のように観光客目当ての店や施設がない事が、殺風景ではあるが新鮮な感じがした。

休日には、芝の上にお弁当を広げる家族など、一日をのんびりと過しているグループが目につき、時間に追われた観光地めぐりを行なう日本人とは、遊びや休日の過ごし方が違うようである。

私の目には、ニュージーのすべてが観光地に映り、どの町に

一行とレストランで昼食





行っても、家々の個性や緑豊かで美しい町並はすばらしいと思つた。馬路村も、個々の家もつと木を利用し、馬路村らしさが表現できれば、それだけで村一帯が「馬路の里」観光地に映る事は確実であると思われるが…。

さて、期待と不安の牧場体験生活である。私は、四名の団員と共に、ボブさんという六十才ぐらいの牧場経営農家にお世話になった。家の周りには、百ヘクタールの広大な牧場が広がり、乳牛約三百五十頭が飼育されていた。又、羊や小動物などが家の周りに放され、庭一面に芝が植えられていた。庭の片隅にあるプールには、澄みきった水がいつでも泳いで下さいと言っていた。これが外国の、普通ののどかな農村風景である。

牧場での体験であるが、ボブさんの所では、二人の使用人を雇っていたので、私達は乳搾りの手伝いには参加しなかった。牧場で搾られた牛乳は、毎日集荷に来る大型タンクローリーで加工場に運ばれて行く。ここで見事な犬の芸を見せていただいた。ボブさんの口笛で、犬が牛の背後に回り、右に左に牛を移動させてゆくのである。

ファームでの苦労は、思いもよらぬ食事であった。ニュージーは、食事には時間をかけ、ゆっくりと楽しんで食べる。特に夕食

は二時間ぐらいを要したが、英語に弱い私などは、食べる事よりも言葉の方に神経を使い、苦しんだのである。皆の会話がとだえるとお通夜のように、重苦しい空気が流れていたようであった。団員は皆近くのファームに入っていたようであるが、私達を受け入れてくれた皆さんは、外国の方と話したりする事が楽しみで行なっているとの事で、何か悪い気がしてならなかった。

ニュージーでの食事は、スープ、パン、肉、野菜、デザート等すべて洋食であり、一週間もこの食事になじむと、日本に帰って食べた日本食は、何か物足りない感じを受けたものである。八日間のニュージーの旅で、時間に追われる日本の生活を忘れ、ゆったりと流れるニュージールランド時間が、私には人間の生活に必要なゆとりであると思ひ、馬路村には、東京と違う時のゆとりがあってもいいのではないかと考える…。

以上が私のニュージールランドの報告になりますが、一つでもニュージーの良さを村の中に活かしてゆきたいと考えておりません。

最後に、これからも若者がどんどん海外に出て行ける制度や政策を打ちたて、視野の広い人づくりを村にお願いして、お礼の言葉とします。

# スポーツ

## 第9回

### 馬路村駅伝

#### 競走大会

平成三年一月十九日参加十五チームで行なわれました。結果は次のとおりです。

- 団体
- 優勝 役場
- 準優勝 魚梁瀬中A
- 第三位 馬路中学校
- 区間賞
- 一区 坂本 誠
- 二区 (スポーツ少年団A)
- 二区 清岡明德(役場)
- 三区 島田朝彰
- 四区 (魚梁瀬体育会)
- 四区 五百蔵隆
- 五区 (魚梁瀬中学校A)
- 五区 木下彰二(役場)



## 第8回

### 中芸地区子供

#### 駅伝競走大会

〈馬路A総合第四位〉

二月十一日中芸地区より二十五チームの参加で熱戦が行なわれました。主な成績は次のとおりです。

- 第三区 区間第四位
- 井上真共(3.1km 12分52秒)
- 第四区 区間第二位
- 上治郷平(2.0km 7分33秒)
- 第五区 区間第二位
- 東谷庸生(2.8km 10分08秒)
- 第六区 区間第四位
- 川内基弘(3.3km 12分50秒)



第1区



2区から3区へ

第6区 2位でゴール

第4区 2位で

ごめい福をお祈りします

氏名	性別	年齢	死亡年月日	世帯主	続柄	部落
西野 眞司	男	54	3・1・11	眞司	本人	日浦
甫木 兼美	女	78	3・2・16	伸次郎	母	影

# 国の進学ローン

## 国民金融公庫高知支店から

国民金融公庫では、平成三年四月期入学の方を対象とした「国の進学ローン」の取扱を平成二年十一月一日から開始しました。

一、ご利用いただける方は、

- 大学、短大、高校、専修学校（修業年限が三年以上の高等過程、修業年限が二年以上の専門過程）などへの進学予定者のご親族またはご本人。
  - 二、融資金額は、一進学者あたり百万円以内。
  - 三、利率は年八・三％。
  - 四、融資期間は、五年以内。ただし、修業年限が四年以上の学校に入学する場合は、六年以内。（交通遺児及び母子家庭については一年延長可能）
  - 五、資金使途は、入学金、学校納付金、受験費用、教科書代、下宿の敷金、授業料など進学に必要な費用は全て対象となる。
  - 六、返済方法は毎月元利均等返済。（ボーナス月増額返済、ステップ返済も可能）
  - 七、補償は、財団法人進学資金融資保証基金、または連帯保証人一名以上。
  - 八、取扱期間は四月末日まで。
  - 九、申込手続に必要な書類は、借入申込書、年収（所得）を証明するもの、ご家族全員の記載された住民票または健康被保険者証（写）
- 現在、公庫ではお申込受付中ですので、志望校が決まり次第、早めのご相談をお待ちしています。
- なお、国民金融公庫のほか銀行、信用金庫、信用組合、農協、漁協等でも取扱っております。

国の進学ローン

輝かしい青春！パワフルに応援！

利率 8.3%

ご融資額 100万円

### 役場

#### 新村長西尾氏

馬路村村長選挙は、西野氏死去により、二月一日告示二月六日無投票で西尾晃一郎氏が当選されました。

西尾氏は、大正十二年生れ。昭和十三年役場へ就職以来、教育長、収入役、助役を歴任し五十九年退職されていきました。また、二月十五日に開催された臨時村議会で、収入役に乾俊秋氏が再任されました。



西尾晃一郎村長

乾俊秋収入役は、昭和八年生れ。住民課長、総務課長、産業建設課長、総務課長を経て収入役二期目。



乾 俊秋収入役